

道標ない旅269

“269”とは南郷中の全校生徒数です

平成30年12月13日(第24号)

校長 益田 孝彦 875-9494

◆◆ 新部長さんたちからの、意気込みや思い パートⅣ 最後の二人を紹介します ◆◆

今回の紹介で、新部長さんを全て紹介することになります。各部活、新体制での頑張りに期待したいと思います。

水泳部 2年C組

水泳部を引っ張っていくために、私が目指している部活は、メリハリのある部活です。メリハリのある部活とは、大会の応援やイベントなど、楽しむ時はとことん楽しむけれど、日々の練習などやるときにはやるという部活を目指しています。メリハリのある部活にするために切り替えを早くして、すぐに練習に取り組めるようにしたいです。また昨年と同じように夏の大会で良い結果が残せるように一人一人が日々の練習に集中して励むことのできる環境を作っていきたいと思っています。水泳部は人数が少ない部活ですが、その分一人一人が輝ける部活だと思っています。全員が一丸となって良い結果を残せるように頑張っていきます。

陸上競技部 2年A組

陸上部部長になりました。まず私が作り上げていきたいチームについて、言いたいと思います。1つは、いじめがなく一人ひとりがちゃんとゴールに向かって進めるチームです。1人も欠けることなく仲の良いチームです。2つ目は、先輩方が築いてきたチームを壊さず、さらにより良いものとして全員で作りに上げることです。しかし言葉で言うのは簡単ですが、行動にするとするのはとても難しいです。けれど、あせらずでることからゆっくり達成していきたいです。この先辛いことがたくさんあります。ですが、辛いことばかりではありません。部長と言うチャンスをくれた先生やはるな、私は部長として認めてくれたチームのみんなのためにも、自分のできる限りの全力を尽くしたいと思います。そしてその全力の力で、チームを支えられたらと思います。よろしくをお願いします。

◆◆ 第42回神奈川県福祉作文コンクールにおいて、嬉しい知らせが届きました。 ◆◆

第42回神奈川県福祉作文コンクール葉山地区審査会にて次の2点が代表作品に選出されました。

1. 神奈川県共同募金会葉山町支局長賞
葉山町立南郷中学校 3年C組 君
2. 葉山町社会福祉協議会長賞
葉山町立南郷中学校 3年A組 君

県の本選に進んだ2作品ですが、うち 君の作品がさらに、神奈川県教育長賞 を獲得しました。おめでとうございます。作品は本日13日付神奈川新聞に全文掲載されています。

◆◆ 校長が思っている「チーム南郷」のイメージを簡単に説明します。 ◆◆

11月のPTA運営委員会にて、「チーム南郷」に係る教職員アンケート結果が話題になり、「チーム南郷」のイメージを伝える機会を持った方が良いということになりました。

私がイメージするところは、

- ① 目指す目標（「自立」「共生」といった学校教育目標や、育てたい子ども像、行事など様々な教育活動を行う目的等）が同じ方向（ベクトル）を向いている集団
- ② 議論や意見の相違はあっても、陰口や悪口などを裏側で言ったりしない集団です。
- ①②を一言で言えば協力して力を発揮できる集団です。

例えば、「指示が守れる生徒」を目指す学年と、「自立した生徒」を目指す学年に兄弟がいたら、頭髪指導でも、「決まりを守れ」（指示）「その髪型でいいのかな？」（待ち）と、個への迫り方にずれが生じるかもしれません。

「自立した生徒」という目標が一致していれば、選ぶ道筋は違うかもしれませんが、育てたい子ども像にずれが生じているわけではありません。目指すベクトルが同じだとわかり合っていることは大変重要です。その上で、いろいろな考え方や道筋があることは、学校としての幅となって有効に働くと考えます。

さらに、陰口などが存在しない学校は、信頼される集団として、推進力においても、実行力のあるパワー面においても魅力的なチームになるはずですが、私がよく使う「チーム南郷」ってそんなイメージなのです。どうでしょうか少しでも伝われば幸いです。

◆◆ 11月16日 南郷中学校学校評議員会兼学校関係者評価委員会が開かれました。 ◆◆

本校の学校評価は、大きく4つの柱について分析し、改善案を11月の中間報告と、年度末の最終報告で示していきます。今回は4つの柱の内の2つについて、学校関係者評価委員会の出席委員さん方の評価を紹介します。(次号で残りの重点目標2つも紹介します。)

重点目標1(柱1) 「新しい時代に必要な資質・能力を育む学校」

【学校が示した中間報告改善案】

『主体的・対話的で深い学び』となる学び方を生徒が身に付けられるように努めていると思う。』『自分は、幅広い学習資料、学習資源や情報機器を取り入れた授業にも取り組むように努めている。』といった教師側の努力が、生徒・保護者に伝わり、実感してもらえるようになることが大切である。現在学校では、授業改革の柱として、『find アクティブラーナー』というインターネット上の教育情報を活用し、授業手法の改善を図れないか試行を始めた。1月末には、優れた実践者を授業講師として招聘し、授業研究会を開き、大いに刺激もしていただく予定である。「主体的・対話的で深い学び」を追求することを目標に、『find アクティブラーナー』や、新たに導入されたタブレット等も上手に使って改善を図っていききたい。

【学校関係者評価(各委員の主たる発言内容)】

- ・ 招聘する講師が何を狙っているかが重要。その思いを南郷中の教職員が受け止められるかがカギだと思う。校長の任期中にその変化が起こればいいと思う。
- ・ 分かることの質的改善が、目指されればいいと思う。教科によって授業のやり方が様々なのは納得できる。
- ・ 講師の授業や講演を聴いて、それぞれの教科の先生が、どう捉えたらより有効なのか、いい点を見抜いてくれるといいと思う。
- ・ 「自立」と「共生」の学校教育目標から考えて、その講師の先生が「仲間とともにみんなでやっというこうとする集団づくり」を掲げている点が、合致して全体的な改善が図られるだろうから、いいなと思った。
- ・ 実際講師の「集団づくり」に共感して、いいと感じた教師が多いと判断する。(教頭)
- ・ 「find アクティブラーナー」を通して様々な刺激を受けてくれるといいなと願っている。(校長)
- ・ こういった方向性で改善を目指そうとする学校の方針が良いと思う。



重点目標2(柱2) 「豊かな心を育み、信頼でつながった学校」

【学校が示した中間報告改善案】

今回浮かび上がった共通の課題は、「相談しやすさ」の点が三者(教職員・生徒・保護者)ともに低かったことである。これに対しては、SC(スクールカウンセラー)等の外部相談機関の充実だけではなく、教師自らが相談しやすさを感じてもらえるように変容することが求められていると考える。自由記述において、教師の発言に対し、不安や嫌悪を感じている状況も見られた。「後ろ姿の教育」という視点で見て、日常の教師の発言を通し、相談することにためらいが生じているようにも感じる。まずは、教師自らがそういった点に心を配り、生徒のより強い信頼を得るように努めていくのが良いと考える。

【学校関係者評価(各委員の主たる発言内容)】

- ・ SCの相談件数はどのくらい? ← (ない日もあり、決して多くない。校長回答)
- ・ 生徒をいじる様な行為は許せない。先生方にもあれば慎んでもらいたい。
- ・ 何の面識のないSCや相談員に相談が出来るかという、なかなか出来ないと思う。先生方に信頼感がなかったら先生方にも相談できなくなってしまう。
- ・ 「この先生には相談できない」と判断されてしまう先生がいるという、判断があることを先生方は受け止める必要がある。
- ・ SCや相談員がお弁当の時間等に生徒とふれあっていく機会は大変重要だと思う。SCや相談員自身が信頼できる人なのかが分からないと相談できないと思う。
→ 強制的に機会を作っていく方が効果的だと思う。

